

〈県立川崎図書館から〉

## 「本でつなぐエール 司書が選んだ科学技術の本」 神奈川県まなびや基金による入門的な理工系図書の整備

荒谷 宏美

神奈川県立川崎図書館（以下、当館）では、2023年度に、神奈川県まなびや基金を活用し、入門的な理工系図書を購入するための寄附募集を行った。また、翌2024年度には、この寄附金をもとに図書を購入し、館内で展示中である（2024年9月末日現在）。当館においては、自主財源の確保による資料整備は初の試みであり、本件の主担当者の立場からここに記録としてまとめておきたい。

### 1. 寄附募集のきっかけ

当館は「ものづくり技術」を支える工学・産業技術・自然科学分野に特化した、全国でも珍しい専門的図書館である。技術者や企業関係者の一部の方には認知されているかもしれないが、一般の方や中高生などの若い世代の知的好奇心にも十分に応えられているかと問われればうっむいてしまう。予算が限られている中では、比較的専門性が高い資料や、継続的に購入する必要がある資料の購入が精いっぱい、入門的な資料の整備は手が回らずにいたからである。科学技術分野は新しい知見が求められる分野でもある。内容の古い本が目立つ書架を見るたびに切なく、しかし、正直なところその状況に慣れてきてもいた。

そのような折、県教育委員会が県の教育環境の整備のために寄附を募る「神奈川県まなびや基金（事業提案型）」（以下、まなびや基金）の存在について、神奈川県教育委員会教育局行政部財務課より情報提供があった。とはいえ、それだけで着手する勇気は出ない。たとえば、寄附募集で集まった金額が翌年度の予算から差し引かれるというようなことがあっては元も子もないのである。仕組み自体もよくわからない。自分を奮い立たせ財務課に電話で問合せたところ、担当者の方は非常に丁寧で優しく、拍子抜けであった。こうして、不安材料を一つずつ取り除き、予算が厳しい状況を嘆くばかりでなく一歩踏み出すタイミングなのだろうと捉え、寄附募集を行ってみるようになった。

### 2. 寄附募集の開始から終了まで

上記のような現状を受け、「ものづくり入門コーナーの理工系の入門書等を充実させリニューアルす

るとともに、フェアを開催することで、青少年が科学技術に関心を持つ機会を増やす」ことを目標に寄附募集を開始した。募集金額は50万円とした。寄附者の皆様からの、科学技術の未来を担う青少年への応援メッセージも併せて募った。

2023年11月11日に募集を開始してからしばらくは鳴かず飛ばずで、取組み自体が知られていないのか、はたまた目標に対して共感を得られないということなのか、不安を抱えつつ様々に試行錯誤してやることになった。

まずできそうなこととして、来館者の方へチラシを直接手配りさせていただいた。

年明けの2024年1月11日には、寄附してくださった方の特典として「おすすめ本おみくじ」を設置した（写真1）。当館の職員親睦会で所持していたカプセルトイを使用し、そのカプセルの中にお手製のおみくじを仕込んだ。

さらに1月26日には、館内に「ぐるぐる募金箱」を設置した（写真2）。スロットから投げ入れたコインがぐるぐると弧を描きながら中心部の穴に吸い込まれる構造になっていて、「楽しみながら」、「つい募金したくなる」ことを期待した。「ものづくり技術」との相性もぴったりで、いかにも当館らしかった。ちなみに、トイレトーパーの芯、焼き海苔の容器のふた等が材料の、職員による力作であったことを付け加えておく。



写真1 館内に掲示したポスター



写真2 「ぐるぐる募金箱」

げていただく機会が増え、それと比例するようにご寄附も増えていった。

1月末には企業関係者の方からの大口のご寄附のお申し出もいただいた。当館の取組みに賛同してくださったのは、わが国のものづくり産業が隆盛を極める過程を実際に体験してこられた方から、これからの世代の技術者への激励であり、その橋渡しの一端を担っているのだと身の引き締まる思いがした。

多方面の皆様からのご厚意が積み重なり、2024年3月31日の募集期間終了時には目標金額を達成していた。最終的な寄附金額は589,044円、それに加え14通の応援メッセージが寄せられた。

### 3. 図書の選定

寄附募集の目標に照らし、図書の選定は若い世代に科学技術への関心を高めてもらいたいという寄附者の思いを形にできるよう心掛けた。

具体的には、古くなってしまっていた小中高生向けの百科事典を刷新したほか、理工系の入門書については、ビジュアルによる解説が豊富なもの、AIや量子科学など最先端の技術を解説しているもの、科学者に関するもの、理工系の進路選択や職業に関するもの、科学技術への関心を持つきっかけとなるような読み物といった視点で選定し、合計234冊を新たに整備することができた。

利用対象の年代は、もともと当館のものづくり入門コーナーが、中高生くらいでも理解できるように解説されている本を中心としているため、今回の選定もそれに準じた。中にはもう少し易しい内容の本や、多少背伸びが必要な本も含まれているだろうと思う。もちろん、大人の皆様にも、理工系の分野は縁遠いと感じている方にも、楽しんでいただけたら嬉しい。

### 4. 展示「本でつなぐエール 司書が選んだ科学技術の本」



写真3 展示の様子

2024年9月13日に、館内のものづくり入門コーナーを使って、この寄附金による購入本および寄附

者の皆様から寄せられた応援メッセージ等を一堂に公開した。(2025年2月12日まで)

書架一面に真新しい本が並ぶのは圧巻で、少々胸が熱くなった。1冊でも多くの本が必要な人のもとへ届くようにと、願ってやまない。



写真4 展示の様子

### 5. 最後に

初めての寄附募集の取組みの経験を経て感じていることを2点記しておきたい。

1点目は、寄附募集は当館の特徴や目指している方向を多くの方に伝えられる機会だということである。寄附を得るためには、これらを端的にわかりやすい言葉で語ることが必須だからである。寄附募集のことを知ったすべての人が寄附するわけではないだろうが、そういった意味で十分に機能したのではないだろうか。

2点目は、寄附のお願いをするということは、本来、当館の事業内容の是非を世に問うような厳しさと背中合わせだということである。今回は多くの皆様のおかげで何とか形にすることができたが、最初から結果がわかっていたわけではない。その緊張感に立ち向かう覚悟のようなものが求められる。寄附募集による環境整備に適している事業と適していない事業があることも十分に考慮する必要があるだろう。

最後に、当館の事業に賛同しご寄附いただいた皆様に、そして日頃から当館を活用して下さっているすべての皆様に心からのお礼を申し上げ、結びとしたい。

あらたに・ひろみ

(神奈川県立川崎図書館 資料整備課)